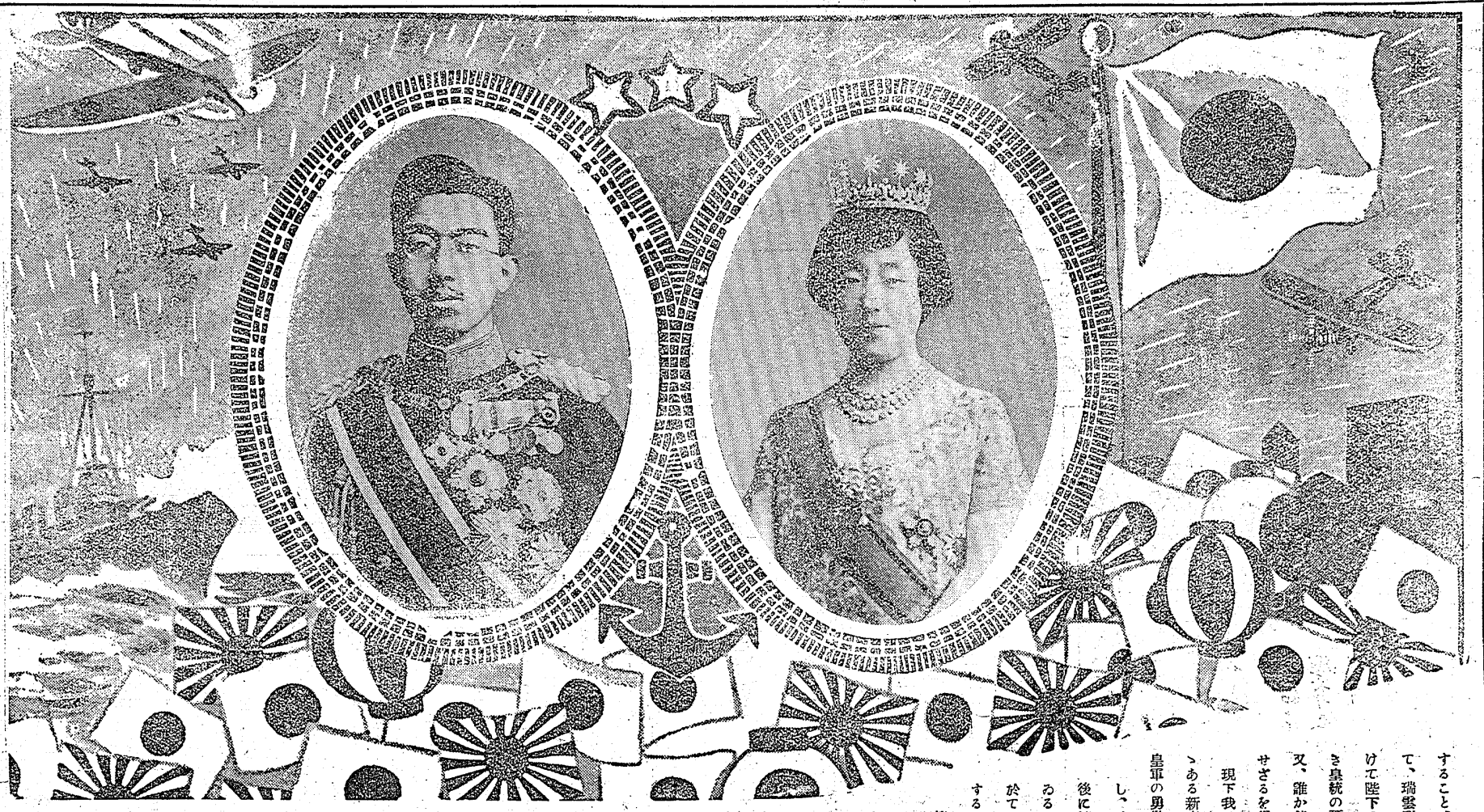


一月一日

紀元二千六百年
常磐每日新聞

日刊
定價一部金貳錢　一ヶ月金五拾錢　郵稅五錢
廣告料　一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜日、祭日の翌日休刊
發行人印刷人　坂本忠治
發行所　常磐每日新聞社　平市仲町三三
電話　六三〇番
常磐每日印刷株式會社
（振替口座）東京一四〇二二〇番

興亞日本の新春を祝す

皇紀二千六百年！連綿として萬世渝ることなき一系の皇統を奉戴して、八紘に浴き皇恩に浴すること、茲に二千六百年！今やその新春を迎へて、瑞雲祥霞の皇居を遶るを拜し、皇國に生を享けて陛下の赤子たるもの、誰か能く萬邦その比なき皇統の彌榮えを奉賀せざるを得やうぞ。同時に又、誰か能く、皇國民たるの光榮と歡喜とを自覺せざるを得やうぞ。

現下我日本の全國力を傾倒して遂行せんとしつゝある新東亞建設の偉業は、既に一年有半に亘る皇軍の勇壯果敢なる奮鬪力戰によつて一段階を劃し、武力戰より經濟戰に移行して、戰線を銃後に轉じ、國民總力戰を戰ふ新段階に進んでゐるのであるが、この銃後に於ける經濟戰線に於て、また如何に果敢なる奮鬪力戰を必要とするか。それは言ふまでもなく武力戰に於ゝる策戰の如く、兵力の如く、飽くまで巧妙適確であり、飽くまで勇猛忠誠でなければならぬのである。

然も、如何に全將兵の忠誠と奮鬪とを以てするも、それは武力戰に於て神速果敢なる戰果を獲得せるが如き、進展と成果とを贏ち得ること頗る困難である。

この困難を如何にして克服し突破するか、それこそ即ち今日しも新に迎へた昭和庚辰の今年、我等の前に提供せられた最も重大なる課題でなければならぬ。

支那事變所理、益々強行せらるべき統制經濟の進展が、益々緊迫性を加ふべき國民生活問題の重大化を、政府は如何にして乘切らうとするのか、國民は如何にして克服しやうとするのか。

光輝ある皇紀二千六百年、此新歲に於て我等日本國民は、歷史的に最も重大且つ深刻なる試練を加へられやうとしてゐるのである。

堅忍！、力闘！、宇内無比の皇國民たる特殊の國民性を發揮することにより、皇紀二千六百年を更に一層光輝づけやうではないか。

謹んで興亞日本の新春を祝す。

常磐每日新聞社
同人

謹賀新年

銅鐵商
山田文一商店
平市仲町通り　電話二六二番

磐城炭礦株式會社
所長　菅原萬治郎
副所長　濱崎善三郎

入山採炭株式會社
所長　大貫經次

古河炭礦　好間礦業所
所長　下野十朗
係長　安孫子虎雄

日曹鑛業
常磐出張所

前代議士
鈴木辰三郎

石城郡銀行組合

平電力株式會社
平驛前　電話二九七番

阿部政右衛門
平市搗槌小路　電二三七番

平市二丁目
大一屋商店
電話一三番　電略ネ
振替東京一九〇三番
明治生命保險平代理店
明治火災保險小南代理店

平市會議長　野崎滿藏

大日本電力株式會社
平事務所
福島縣平市

日本鐵屑統制株式會社
指定商　山田商店
平市卜五丁目
電話五五五番

白水炭礦會
壽炭礦々業所
五十嵐炭礦不動澤鑛業所
杉山炭礦々業所
浪花炭礦々業所
神奈川炭礦栃窪鑛業所
高階炭礦々業所

貴族院議員
諸橋久太郎

福島縣廢品回收懇話會
平支部
支部長　柴田平署長
副支部長　近藤繁治

福島縣町村長會
石城支會

平藝妓屋組合

福島縣會議員
（イロハ順）
蓮沼龍輔
小野晋平
赤津庄兵衛
木村守江
關内正一

平職業紹介所
所長　立澤高元
外職員一同

平市石城郡内
各學校長會

平市役所
市長　青沼鋒太郎
助役　伊藤秀吉
收入役　西野源次郎
主事　酒井寅之助
主事　四家久米治
主事　増田忠

銘酒『白馬の雪』醸造元
松本德一
平市平窪　電話二八五番

小田吉次
電話三二四番

商工省認可
常磐證券株式會社
平支店
支店長　井坂重松
顧問　吉田金作
平話七八四番

合資會社　平電氣鑄鋼所
臼井彦太郎

平市田町六〇（驛前）
平鐵工
機械工業
組合
電話七八四番

平商友會
會長　室橋光
副會長　比佐三郎
會計　宮川義一
副會計　木田謙二
常任幹事　鈴木武雄
幹事長　坂本忠治
外會員一同

植田水力電氣株式會社
社長　金成通

平警察署
署長警視　柴田鶴作
外署員一同

有價證券實物問屋
富岡株式店
富岡靖介
平市四丁目　電話一九一番

平保健所長
青沼淡夫

野村生命平支部
支部長　結城勝美
小名浜出張所長　秋山英雄
久之濱出張所長　木幡良郎
浪江出張所長　今中熊二郎
中村出張所長　岸辰見
同　出張所總務所長　森寅治

旅舍
大幸館
主人　比佐棟雄
東京市上野驛前（横通角）
電話下谷六七七番

堀江工業株式會社
專務取締役　鈴木唯治
平市　電話五一九番

片倉製絲　磐城
株式會社

福島縣鑛山用機械製造工業組合
平市田町六〇（驛前）
電話七六四番

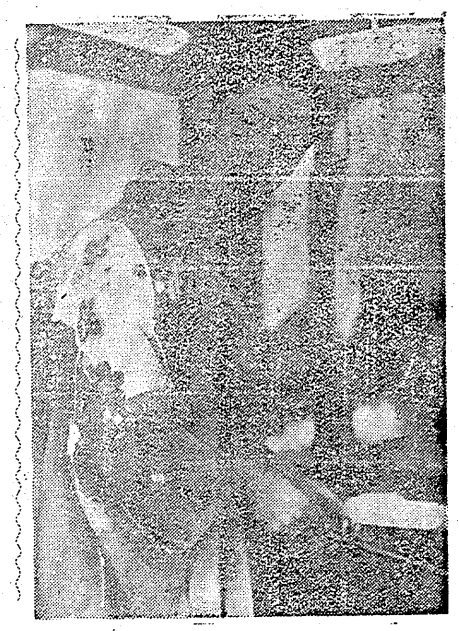
福島縣齒科醫師會長
平市會議員
萩原義雄

福島縣自動車協會
平支部

福島縣平商業學校長
服部甲

平製氷株式會社
社長　木村清治
專務取締役　松本一郎
電話二二八・二二六番

社頭に淨き陽輝く



諸般の施設遂行

市民協力の實を回顧

平市長 青沼鋒太郎

二千六百年の年頭に當り昨年を回顧して諸般の施設を遂行した二三の例を申せば數年來地方民待望の市立商業學校の新築は物價勞銀の騰貴資材不配給不圓滑等の不便等を克服して工事を完成し躍進平市の學園として應はしき殿堂を見ました、又、就學兒童の增加に伴ひ前年より繼續事業としての第五小學校敷地埋立は目下鋭意工事を急ぎつゝあります、次に社會事業方面の公益質屋は運用資金二萬圓の起債を得て字大町に事務所を新築し昨年十一月八日事業開始以來未だ日淺きも良好なる成績を辿りつゝあります、又市と連繫協力しつゝある社會事業助成會は字三崎に授產所を建設し目下ミシン四十三臺を設備し主として出征軍人遺家族を作業に從事せしめ銃後の援護に良成績を擧げ、更に隣保館の建設は既に計畫を了り近く着工の運びに至るの現況でありまして、更に軍事援護方面に在りましては軍事後援會を銃後奉公會と改組し、本市官民の和衷協力により出征軍人の歡送、軍人遺家族、傷病將兵の慰問に、勞力奉仕に其の他援護事業に萬全の策を講じ日夜の別なく獻身的努力を致され益々銃後の强化に奮鬪せられつゝあります、

其の他道路の改良、溝渠の改造、義粹制實施による青年學校の充實、青年團及防護團の組織變更、精動運動の協力等に相當の成果を收めましたことは誠に欣快に堪えざる所であり今後益々市民協力の實を擧げて非常時突破に精進したいと思ひます

戰時下銃後民の模範的生活實踐

平市役所では戰時下銃後國民の模範的生活實踐を强調し左記事項の徹底を望んで居る

一、松飾り其の他新年恒例の諸事萬端は時局柄努めて簡素にすること

二、虛禮及年始贈答の類は一切之を廢止すること

三、新年奉祝の爲居藤を用ふることは我國古來の慣行にして敢て之を禁止するの要なきも居藤に名を藉り飲酒の傾向を助長せざること

興亞の春の誓ひ

平市の『紀元二千六百年元旦の興亞奉公日』は先づ午前九時を期し汽笛、サイレン、鐘等を以つて「國民奉祝の時間」を衆知し家庭其の他で夫々宮城を遙拜し聖壽の萬歲を壽ぎ紀元二千六百年の年頭に當つて國民的覺悟を固め成るべく寄近小學校の式典に參列されたいと希望して居るが各小學校の學式時刻は左記の如くである

第一校第一次式午前八時三十分、第二校第二次式同九時十分、第三校午前九時十分、第四校午前九時十分

待望の工業學校

平市の躍進力に拍車

皇紀二千六百年の平市に於ける劃期的な事業の一つとして縣立工業學校の建設がある、是れは慶報の如く鄕土の成功者三井英一氏の二十萬圓の寄附を基礎として郡下各炭礦、日曹、日立、吳羽、日東、高玉、東電等の各大會社の協力に依つて建設費八十萬圓を造成し縣に於て採鑛冶金、電氣、機械の三科目より成る甲種程度の工業學校を平市に設置し現下の工業界に於ける人的資源の欠乏に幾分なりとも寄與せんとするにあり

一方各小學校は兒童數が激增し收容難に陷り第五小學校新設の急に迫られて居るが文部省の意嚮として小學校增新築の起債は是れを認めぬ方針であり若し收容難を告げるなら二部教授をやつて一時を凌げと云ふ穩强硬な態度を示して居るので第五小學校の新築は延期の止むなきに至つた爲此際は第五校新築の財源を工業學校に傾注し若し寄附金や其他の財源が豫定の八十萬圓に到達しない場合は前記三科目の內から一科目を削つても新學期早々平商積校舍を使用して開校の運びに至らしむる意氣込みであり開校の暁には磐中や平商への入學難も緩和されると共に年々六七萬圓の經常費が隣から投ぜられる事になるので、あらゆる角度から見て同校の存立は平市の躍進力に大きな貢獻を發揮する事になると共に晴れやかに明けた皇紀二千六百年の春を壽ぐ平市の新春奉祝會は今元旦午前十一時から約一千名出席の下に公會堂で擧行されるが

國歌合唱、遙拜、奉祝年頭の辭(青沼市長)に次ぎ高らかに萬歲を三唱簡素な祝宴を張つて和氣靄々裡に會を閉づることになつてゐる

鐵線勇士への年賀狀が激增

平郵便局における年賀郵便取扱數は十五萬三千九百七十五通で前年に比べ約四五割方減じたがこのうち前線の兵隊さんに對する分は反對に激增銃後國民の祝戰捷と前線に對する感謝の誠が遺憾なく現れてゐる取扱ひ內譯左の如し

△引受 二一、四五八通
△中繼 一一九、九九七通
△配達 一二、五二〇通

HKから

仙臺 中央放送局では從來毎日午後七時の全國ニュースが終了してローカルニュースに移る場合使つて居た「以上」といふ言葉の代りにチャイムによる音樂サインを入れる事になつた、この音は洋樂器の音に日本的な音階を活かしたもので同局で皇紀二千六百年記念として元旦から放送する東北出身の名士の『鄕土に寄する言葉』の錄音の第一日である河原田文相放送の終了とローカルニュースの間にこのチャイムを先づ使用し毎日音樂サインを入れる事になるとの音樂サインを入れる事になつた

炭燒きの煙登る

平附近に描く珍風景

木炭飢饉の對策として郡市農會は木炭同業組合から技術員を招き直接製炭の指導を行つて居るので昨今は自家製炭やら小賣商が原木を手にして燒き出すやらで平市の附近などはどの山見ても煙りの出ない場所がないといふ珍風景を描き飢饉克服の勵みが活潑に見受けられる

福神刻みおのおの爺さん

木の壺に銀貨ザクザク

內鄕村大字小島眞柄正三さんは日露戰役に傷ついた勇士として何不自由無き身を趣味の一刀に惠比須、大黑を刻んでは氣の向いた家に奉祀させ額を定めぬ金一封處か、場合によつてはたゞでも惡い顏をせぬ無慾振りに、何より好物の酒を友に裕かな晚年を送つてゐたがこの程六十二歲を一期として死亡しシリ詰まり、その額七百數十圓……これはお爺さんが好きな酒代を除いては子孫のために丹念に蓄へたものらしく貯蓄奬勵の昨今福神刻みのお爺さんにふさはしい事變下年頭貯金朗話として附近の話題を賑はしてゐる

戰線勇士への年賀狀が激增

平郵便局における年賀郵便取扱數は十五萬三千九百七十五通で前年に比べ約四五割方減じたがこのうち前線の兵隊さんに對する分は反對に激增銃後國民の祝戰捷と前線に對する感謝の誠が遺憾なく現れてゐる取扱ひ內譯左の如し

△引受 二一、四五八通
△中繼 一一九、九九七通
△配達 一二、五二〇通

HKから

仙臺 中央放送局では從來毎日午後七時の全國ニュースが終了してローカルニュースに移る場合使つて居た「以上」といふ言葉の代りにチャイムによる音樂サインを入れる事になつた、この音は洋樂器の音に日本的な音階を活かしたもので同局で皇紀二千六百年記念として元旦から放送する東北出身の名士の『鄕土に寄する言葉』の錄音の第一日である河原田文相放送の終了とローカルニュースの間にこのチャイムを先づ使用し毎日音樂サインを入れる事になるとの音樂サインを入れる事になつた

奉祝・興亞の新春

本廣告を以て回禮の御挨拶に代ふ

昭和十五年元旦

常磐毎日新聞社
社長 川崎文治

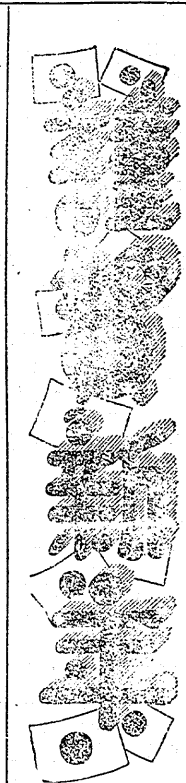
花川 甲一
海崎 泰男
甲根 利
大本 久
林 榮
俊吉 男
高橋 實
赤澤 子
石崎 雅
坂田 忠治

賑ふ映畫街

新春に清新な娯樂を提供する市內の三映畫館はお正月の番組に夫々頭を練つて準備を進めてゐたが左の如く決定「新興特別大興行」や「祝新年興行」と銘打ち競つて華々しく上映される

△世界館：新興京都大作時代映畫大谷日出夫、大友柳太郎、雲井八重子主演「佐竹競艷錄」松竹大船超大作川崎弘子、夏川大二郎、桑野通子、坪內美子、水谷實千代、河村黎吉主演「日本の妻」前後篇外ニュース

△桑樂館：東寶東京特作入江たか子、大日方傳、霧立のぼる、丸山定夫、汐見洋「りぼんを結ぶ女」映畫浪曲漫才音樂



株式會社 田邊製作所
第一工場 平市字白銀町一四 電話二九四番
第二工場 平市禰宜町一五 電話七二番
出張所 東京市京橋區西八丁堀一ノ四 電話京橋七九三五番

平料理屋組合

新古麻袋買賣 山田麻袋商店
內鄕村字境 電話一九二番

平豆腐商業組合
事務所 平市古銀冶町四

臨山用電器諸機械製作販賣
三瓶電氣商會
三瓶電機製作所
平市仲町一八 電話五九七番

市會議員 高橋龜松
平市白銀町 電話六三八番

日本ゼネラルモータース株式會社 シボレーポンテアク販賣店
株式會社 福島モータ商會
平市三丁目 電話一八七番
本社福島市 支店山形市

安島重三郎
石城郡山田村

平看護婦會
清野キヨ
平市南町 電話三〇七番

市會議員 大谷武雄
平市三丁目 電話一九番

原歯科醫院
原精一
平市土橋 電話三一番

好問軌道株式會社
取締役支配人 山崎佐市郎
監査役 木田謙二
平 電話四二三番

錦村警防團長 山崎登
石城郡錦村

平土木監督所 所長 須藤清藏

鹽屋 山崎合名會社

合資會社 平銅鐵機械商會
代表社員 井尻七三郎
平市銀冶町一二 電話五二二番

植田町長 古川傳一

磐城無盡株式會社
社長 小宅嘉久治
平市 電話三七八番

光 玉屋洋品店
平市銀座通 電話六五六番

色川木材株式會社
締役取社長 色川一
平市撮鎚小路一 電話三四一番

合資會社 平製作所
電話四一番

平庶民金庫
電話四九三番

御旅館御料理 住吉屋本店
平市紺屋町 電話一五九番

平運輸株式會社
平驛前

金成醫院
金成忠義
平市鎌田町 電話三五八番

福島縣平商業學校 職員睦會

割烹 谷口樓

平郵便局長 川村浩

平履物商組合
組合長 新妻愼治
副組合長 田口辰雄

保證責任 石城製靴工業組合
平市南町 電話七七五番

平市醫師會有志
…(イロハ順)…
大和田郡司 電話一七〇番
大森勇 電話二五八番
根本莊次郎 電話三四番
松村鐵郎 電話一〇七番
白土德彌 電話一七九番
志賀正光 電話一六二番
重田景治 平市驛前通り
鈴木亮 電話四三八番
鈴木亮平 電話四五二番
喪中ニ付欠禮仕候 吉田安雄

關內藥局
藥劑士 關內榮助
平市四丁目 電話四〇番

西村屋藥舗
平市二丁目 電話三番

電機と機械 藤浪電機工業所
平市白銀町 電話五八一番

洋食、喫茶、安會 コンパル
平驛前通り 電話六六六番

金物商 宗像金物店
平市研町 電話二九六番

株式會社 百澤商店
平市四丁目 電話(一二番七一五番)

御料理天婦羅 越乃家
平市二丁目 電話三三〇番

鶴屋洋品店
平市四丁目 電話一四〇番

海產物乾物商 仙臺屋號
關與三郎
平市長橋町 電話五四八番

小間物、化粧品、洋品商 大黑屋
本店 平市三丁目 支店 常陽銀行前

勝次商店

平市公益質屋
平市大町六番地ノ三

袋屋果實店
平市四丁目 電話一一一番

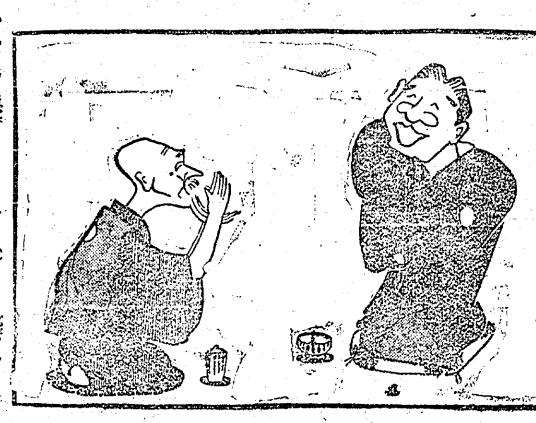
謹賀新年

新題落語 元年所生

（紫無斷線）

春風亭櫻枝
高野つる平畫

「國藏君さん、お目出度う」
「ね、ことあ藏さん、いやお目出度う。今年は藏々お藏さんの年だな」
「え、私の年……てえますと」
「お藏さんの生れた年が藏、今年が又藏年といふわけさ。藏が矢張り藏でな。同い年だよ」
「え、冗藏君ふちゃいけねえやな。お藏さんみてえな爺いと私みてえな者が同い年だなんて」
「口が藏いな。干支が同じだと君ふんだよ。僕は明治元年生れだから今年七十三藏さ」
「七十三！　へえー！」
「何を感心してゐなさるんだ」
「國藏人の藏だが七十三藏たあ又よく保ったね。藏ならとうに化る藏だ」
「おやゝ、何藏藏だな。まあいゝ、そこが藏さんの特藏だ」
「ソーですとも！」
「藏藏ッちゃあいけないよ。無智無學の徒は、藏しいよ」
「國藏君さん爆てちゃあいけねえ」
「藏が爆てるものか。愚だの」
「えツへツへツ。全く」
「呆れたな。通じがないよ」
「下駄をかけたらどうです。年齒の通じのねえのは大藏だ」
「うふッ。有難う。時に何處へ行きなさる？」
「元日だから藏藏りに行くとこなんで」
「それや結構。丁度いゝ。國同行しようじゃあないか」
「ようがす。藏りやせう」
「ところで藏さんは藏前で何と藏藏をなさるな」
「いや、私は近藏じゃあねえ」
「近藏？、いや藏藏だよ。ツまり何をお藏りするといふのだ」
「藏。ねえ藏を藏くもんじゃねえ。藏藏りの文句なんざあ大藏藏ってらあね。國家安藏家内安藏、今年はたんまり藏かりますよう。若し藏げさして藏いたら藏……と言びてえが、金は藏藏品だから大理石の藏碑でも藏めやせう。どうです藏さん……」
「藏藏平番だな。何だい藏さんとは。藏藏に相藏する藏もないもんじゃあ……か」
「ものは相藏てえますからね」
「藏いたな藏一藏さんに大理石の島碑が藏じられるかな」
「シーッ。大きな藏をして藏ひますめえ。藏えると藏らあ。此方は藏さんをペテンにかける藏りでゐるんだから」
「どうも話にならないな」
「二條藏君さんなんざあ何を新るんで？」
「言てえと藏」
「ソーさね。家藏がチャン〳〵上りますぢゃカネ。それとも藏に毛が生えますよう……」
「いゝ加藏にしないか。かういふ時局に、僕は僅人の利益等は念はん。藏ら天下國家の藏を新藏する」
「へえゝ。この間藏藏で月形平太がそんな事を言ってやした」



石川鐵機械製作所　石川義助　平市堂ノ前　電話一七八番

市會議員　鈴木庄之助　平市平窪

藤森事務用品商店　平市田町　電話三七〇番

會川延太郎　平市久保町　電話三六七番

市會議員　山野邊義政　平市田町　電話六七六番

渡邊醫院　渡邊久　平市風坂　電話一六一番

平市第一區長　川角兼吉　平市長橋町

市會議員　鈴木彌太郎　平市南町　電話六六四番

藤寅カマボコ店　平市一丁目　電話四二二番

石城郡產馬畜產組合　組合長安島重三郎

市會議員　吉田寅之輔　平市紺屋町　電話四七六番

純ドライクリーニング　西洋洗濯　白榮舍ランドリー　平市田町

帝國生命保險會社平監督所　所長中根義男　平市材木町四〇

和洋建具、家具、テーブル、椅子其他裝飾品一般　製作販賣　片寄製作所　片寄小彌太　平市五町目　電話四八四番

三井タクシー　平市二丁目　電話六八五番
三井質店　平市四丁目　電話六〇六番

平市田町　鈴木耳鼻咽喉科醫院　鈴木正男

最優最大日本生命保健平代理店　魚問屋志賀盛榮　平市四丁目　電話二一三番

市會議員　酒井清　平驛前　電話一四九番

土木建築請負業　強口唯七郎　營業所平市田町　電話二八二番

市會議員　永山勇吉　平市久保町　電話五六三番

いづみや玩具店　平驛前通

市會議員　吉村安治郎　平市研町　電話二五七番

牛鳥御料理　石川亭　平市田町　電話四三番

市原醫院　市原卯太郎　市原三三男　平市田町　電話一一四番

市會議員　佐藤幸太郎　平市仲町　電話四五五番

平寫眞師組合

平市西洋料理屋組合

市會議員　矢吹亀作　平市平窪

水野化粧院　水野冬子　平市白銀町　電話六七八番

御料理　君の家　平市田町　電話三八二番

磐城青年學校　校長本多忠綱　校主平塚二郎　平市城山

金成自動車部　金成國雅　平市鍛町　電話二六六番

平驛前　昭和タクシー　野崎自動車商會　電話三四〇・三四三番

磐城佑賢學舍　塾舍長法學士大和田忠良　平市六間門　電話(平)九三番

華道家元池坊生花　廣山流投入盛花　茶道表千家　教授　同旭亭　草野錦溪　平市八幡小路七五

市會議員　吉田五平　平市南町

土木建築砂利運搬請負業　神谷組　神谷兼次郎商店　平市白銀町　電話六六五・七二三(增設)番

株式會社　福島無盡金庫

諸機械、古銅鐵、ウエス、製紙原料、屑物類　武藤治郎三郎　平市長橋町　電話五八五番

三二三屋肉店　平市田町　電話三二三番

ハシモトヤ糸店　平市銀座通り　電話一四番

大塚製靴部　運動具部　店主大塚鳳三郎　平市田町　電話七七番

市會議員　鈴木庫左右　平市警察署通り　電話四六七番

井坂醫院　井坂久吉　平市田町　電話五五九番

平市第二區長　木澤常松　平市古鍛冶町

平三業保健組合

諸機械、チルド車輪製作所　武藏鐵工所　平市搗槌小路　電話五一四番

平驛公認　不二タクシー　電話三二番

福島縣第二區　木村外科醫院　木村淳　平市警察署通り　電話三〇九番

凍氷仲買人組合

丸一材木店　平市五丁目　電話二九〇番

陸船諸機械、鑄鐵、砲金鑄造　佐藤治郎鑄鋼所　平市六丁目　電話六七二番

メガネ專門　玉屋眼鏡店　平市本通二丁目　〝國を護れ！眼を護れ！！〟

明治生命保險株式會社　小野勝康　平市南町

郡山無盡株式會社　平市鍛冶町　平出張所

ほねつぎ　桑原柔道整骨院　平市公園下　電話六七四番

平病院　院長醫學博士鈴木定藏　平市十五丁目　電話六四一番

宮川理容所　宮川義一　平驛前

市會議員　金古政通　平市田町

貸切、タクシー乘合　鈴木自動車部　平市四丁目　電話二一七番　和泉屋旅館

平果菜商組合　中央市場　電話七一四番

礦山電氣機械　高壓タービンポンプ　吉伴製作所　平市堂ノ前　電話二二五番

早川材木店　平市古鍛冶町　電話五八四番

自動車修繕部分品商　佐藤商會　平市南町　電話三八一番

古物問屋　淺野孝治商店　平市堂ノ前

グリル　洋食喫茶　バッカス　平市銀座通　電話七〇二番

和洋菓子問屋　高岡屋　平市研町　電話四〇六番

平市二丁目　處方調劑一般藥品醫療機械　堀藥局　藥劑士堀功　電話三二六番

日活映畫　平館　電話四六六番

坂本紙店　平市一丁目　電話一八番

クスリは平市一丁目　大平屋

丸屋タビ洋品店　平市一丁目

木炭煉炭問屋　市原商店　平市一丁目　電話二四四番

大床號　石崎理髮所　平市田町　電話一八八番

平市三丁目　丸ほん商店　營業所電話三五九　製作所電話一八二

御料理　一の井　平市三田小路　電話一六七番

建築用化粧タイル左官壁材料一式　野内商會　平市南町　電話一一一番

三國屋印刷所　平市銀冶町　電話五三三番

銅鐵古物問屋　清野商店　平市長橋町　電話七一六番

うなぎ料理　松本樓　平市南町

關内精米所　平市長橋町　電話三八九番

西洋、中華料理　福壽軒　平市田町　電話二八番

魚清食堂　平市二丁目　電話六三三番

大貝　平市四丁目　電話一三四番

關内半平　平市長橋町　電話一六〇番

伊勢屋　平市四丁目　電話四五番

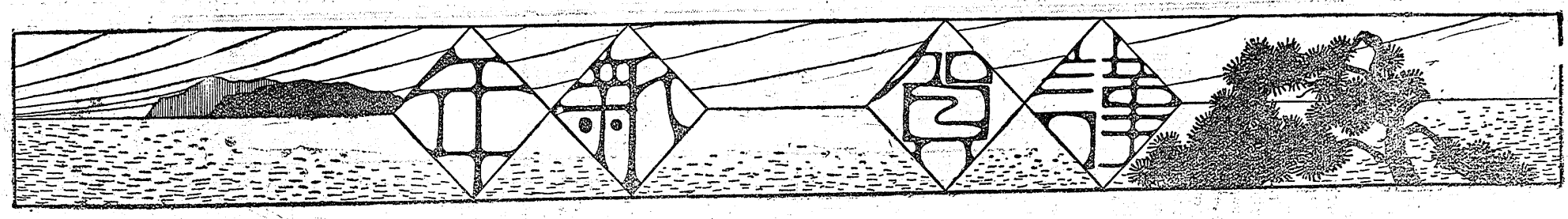
御料理天婦羅仕出し　月廼家　平市田町　營業三〇四番

マルトモ書店　電話二三四番
マルトモ運動具店　電話一二四番
マルトモ食堂　電話一二三番

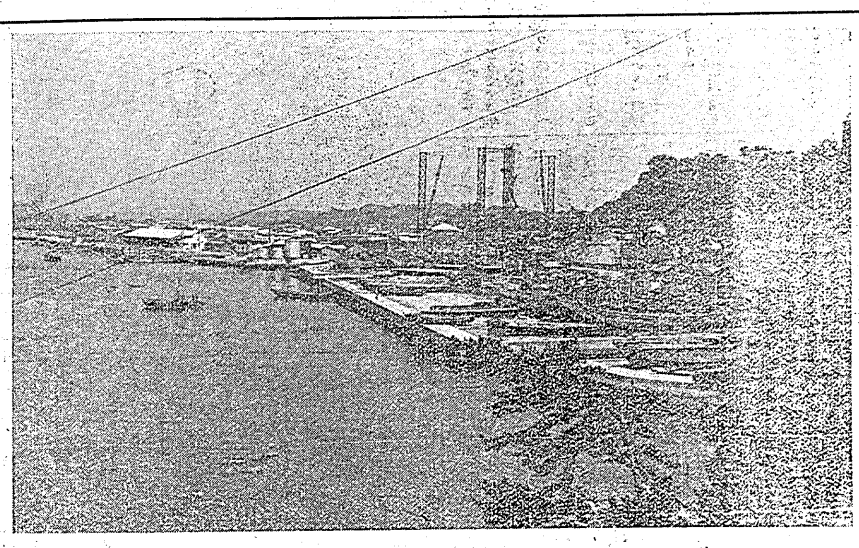
阿部藥舖　平市田町

加藤自轉車店　平市長橋町

常磐毎日印刷株式會社
取締役社長　川崎文治
取締役　佐々木龍若
取締役　志賀盛榮
監査役　門傳清吾
監査役　原精一
相談役　山崎與三郎
相談役　阿部政右衛門



小名濱支局戰地へ贈る!!!



吾が郷土兵の御健闘を祈る

小名浜支局長　小野務平

聖戰既に四回の春を迎へ、聖壽の無窮を奉祝すると共に、皇軍の四百餘州を掩蔽せる勇猛果敢の奮戰振りに對して滿腔の感謝と感激の誠を捧ぐるものである。

回顧すれば皇國出師以來、海南島より北は蒙疆に至る實に四千キロに近い大戰線を擁し、曠野に、山岳に或は金城鐵壁に、或は盤礴に、長江に、海に陸に空に連戰連捷、全く無人の地を行くに均しき皇軍の進擊振りは世界戰史に輝やしき勳績を印するもので今更敬々の要のない處である。

然るに未だほこを治むるを得ざる理由は、彼れ將生の背後に在りて巧みに將生を繰り以て自己の慾望を滿足せしめんとする彈丸、奸鵬の潛在するに依つてである。

更に進んで東亞永遠の和平を樹立せんとする神武帝以來の大御心に深く根ざすが爲めである。この大方針を以て我が帝國が師を起すに至つた以上は其目的貫徹が即東亞の和平である。

この廣大なる大理想の許に四百餘州を足下にかけ帝國本來の仁義觀念をして醇化せしめんとするもので茲に世界雄飛の首途に立つもので、吾々軍後に在るものゝ深く考慮を拂はねばならぬ所である。

茲に二千六百年の年頭に際し勇士諸彦の武運長久を衷心より祈る次第である。

【寫眞は小名濱港全景】

改組後の警防團

小野町長

本年四月一日勅令に依つて從來の消防組と防護團が解散し新らたに警防團が組織された、之れは水火消、防防空防護の前動体が打つて一丸としたものが警防團であるからして從來の水火防は勿論更に防空作業が重要性を帶びて附加された事は其改稱と共に明瞭となつて來た。

こうなると團員資格が舊來と違つた詮衡に依つて任命を見る事で其處に一段の向上と發展が認めらるゝ。

即ち團長から幹部に依つて見るも實に能く其當を得て居つて昔の纏を目標として第一番火消しを爭はんとする時代とは雲泥の相違がある、茲に改組された要点があるのである。

小名濱警防團長は町助役高木保氏である、町治上多忙の身を以てこの劇職に缺かし、能く幹部との折衝や、團員の統一に就ては一糸亂れない統制の許に誕生匆々他の町村と違つた、海嘯に備ふる活動が引續き三回にも及んである、此場合の活躍は、昔日の消防組とは其作業に於て著しき相違を示し、私心を離れた公共的勇猛心に燃へ、勇敢なる作業に至つては唯々感激の深きを覺えるものである。

さもあるべしで、高木團長を首班として副團長には郷軍分會長で町議の志賀要平君を推し、第一分團長としては、漁業組合理事で町議の野崎貞行君を擧げ、第二分團長としては、曾て本校の訓導として鏘々の聲あつた町議の木田谷平君を据へ、第三分團長としては、一町の熱血漢たる齒科醫鈴木正君を、そして第四分團長としては、町議の菅原勳君を任じて居る、そして更に、警防團本部直屬の名の許に警護部長として陸軍中尉立花勇君、防毒部長が救護部長兼務で本町開業醫草野道平君が、交通整理部長に平野直康、工作部長に藤田憲君が配給部長を兼務、避難所管理部長に御代喜作特設消防部長に松原正美の諸君を任命して幹部の大系をなし三百餘名の團員を各自其部所に就いて各々其職務の完遂に務めしむる組織である。

この組織を以て團員は警報一度鞳すれば手の指を使ふが如く一身一体の奇敏な動作が展開されると云ふのが根本である故に組織直後に於て試驗された、狂瀾怒濤の襲來を眼前に横はる防空事業に對する敵次の訓練の如き往時の稽思潮を去り一誠能く奉公の實を擧げる點に於て二萬町民が心命を託するに充分であると言ふて過言でない。

殊に銃後國民の儀表として立つ各團員の赤誠こそ眞に國家を談ずるに足るもので茲に二萬町民が信頼を大ならしむる所のである事を强調するものである。

水産の巨鐘

水野漁業組合長

小名濱町が町是として最も關心を要するものは何と云ふても水産業に之を需めねばならぬ、然り水産業の振否は立ろに町全体に至大の影響が波及し來たる事を目撃する事あらう、況んや復水産業が國策的見地から食糧問題を左右するに至るおや である、茲に水産報國に依つて起る所以が判明する。

而して其水産業又そ の指導者に依つて振否がある、我々濱漁業組合長水野政次郎氏の如き能く水産業に還大の理想を有する適材たる事を證する人材である。

氏は常に本町の將來を卜知して商港熱に浮かれる事を確く戒め漁港をして閑却する事を禁じた、故に何れの場合でも漁港を中心として計劃を立案し町當局にも、縣當局にも其意見を陳辯して誤れる時代思想を暗々諷刺し來つたものである。

昨今氏の透徹せる意見は各所に其實を結び先づ漁業組合内容の充實、更に揚繰漁業の推奨、遠洋漁業の創始等、矢繼ぎ早やに巨鐘を亂打して、當業者の覺醒を促して已まぬ、其有く處として可ならざるはないのを見受けるのであらう。

元來水産氏は漁業にかけては決して黒人ではないが、然し一端身を漁業界に投じてより、其天稟の才幹は何れも洞勢力が奇懸であつて舊思想に捉はれず舊殻を脱し、能く業界の革新に當つて邁進した、組合長就任既に十年、一意專心、他を顧みない、氏の精錬された心情は近時著しく向上し聲譽縣下を風靡するに至つた事は今改めて推賞の要はない、殊に遠洋漁業に於ては地方の先覺者たる立場に於て東日本丸の經營に當り、其漁獲高實に一ケ年二十萬圓を算するなる其計劃に非凡の手腕を試みて居る。

又教育方面に就て見る に毎年の就學兒童數は著しき增加率を示し他に三千の生徒を收容せねばならぬ現在である、故に本年度に於て第二校建設の議成り既に定西部落に地を相し現に建築中である更に産業學校をして改組を叫ばしめ、女子教育機關として實科高女の開設の急を告げ目下其計劃中で明年度より或は實現の運びに至る機運を示して居る。

教育事業は第二世發成の基本となるべきもので茲に力を注ぐの要がある宜哉で西山校長を中心に既に前校長たる福尾伊太郎氏や、訓導たりし木田谷平氏等の町議として敏腕の揮ふあるを以て本町の教育事業は親船に乘つたより安神をして可なりである。

更に特筆して報導缺くべからざるものに銃後會としての各團体の活動がある、本町銃後會には小野町長を會長に、高木助役、樋口收入役を副將と して各吏員並に町議、各區長幹部として其体係をなし國防婦人會、方面委員等の遺家族慰問の赤誠、遺照諸の託銘行脚より得たる淨財を銃後會への寄附、其他各自有志家の寄附等に依つて遺憾なき銃後の赤誠を捧げて居る、此點に於ては出征せる各位に於ては區々たる憂を抱く事なく祖國の爲めに活躍あらむ事を祈つて已まぬ次第である。

躍進の小名濱

高木警防團長

三百萬圓の工費を以で修築した小名濱商港は六千噸級の船舶を容るゝに足る良港と化して海の玄關たるの役目を果すに充分である、五百萬圓の水揚げを容易ならしむる漁港は堂々たる町營魚市場の完成に依つて威容を示し、海洋に對する設備は茲に初めて凱歌を奏するに至つた、而して陸上に於ける、港灣と不離の關係を持つ鐵道は、平小線實現は未だしと雖も小泉鐵道、即ち磐城海岸航道株式會社の誕生に依る、小名濱臨港鐵道株式會社の誕生に依つて泉驛との連絡は指顧の間に結ばれ港灣の價値いやが上にも威容を加ふるに至つた、

又三千萬圓の巨資を以て立つ日本水素工業株式會社小名濱工場は其敗地十數萬坪に對して殆ど空隙なきまでに工場の建設を見、日ならずして繰業に着手せんとする等、其廣大なる工場態勢に至りては恰も東北の大阪を以て謂るに足るものである。

翻つて町政の現況に至らば、小野町長、天禀の奇才を發揮し工場誘致に港灣完備に、水道布設に新規事業に於ける、港灣と不離の關係を持つ鐵道は、平小線實現は未だしと雖も小泉鐵道、即ち磐城海岸航道株式會社の誕生に依る、小名濱臨港鐵道株式會社の誕生に依つて泉驛との連絡は指顧の間に結ばれ港灣の價値いやが上にも威容を加ふるに至つた、

又三千萬圓の巨資を以て立つ日本水素工業株式會社小名濱工場は其敗地十數萬坪に對して殆ど空隙なきまでに工場の建設を見、日ならずして繰業に着手せんとする等、其廣大なる工場態勢に至りては恰も東北の大阪を以て謂るに足るものである。

翻つて町政の現況に至らば、小野町長、天禀の奇才を發揮し工場誘致に港灣完備に、水道布設に新規事業に於ける次から次と將來の市制實施前の文化設備に邁進して居る、高木助役女性的ではあるが天資豪健其に女房役としての使命を果し、躍進の巨歩に一段の力を添へて居る、樋口收入役又百萬圓を越いんとする町の大豫算に對して明敏なる出納の成績を擧げ殊に納稅事務に至つては郡下に範を示して居る。

町村に於ける立役たる所謂三役一致の美は町村自治運用の上に欠くべからざる要訣で之を本町に見る事を得るは誠に以て經國の爲めに欣快とする處である今や本町の前途は、躍進に躍進を重ね其膨脹力に至つては殆と豫知し得ざる潛勢力を有し既に都市計劃區域に加へられ内務省は其範圍を決定發表して居るなどは其進展を裏書して餘りある

外觀の威容と相俟つて内容の充實又之れと併行するに論を俟たぬ、即ち二十四名の町議は、何れも新進氣鋭の人材を以て網羅し町政運用の上に靈腕を揮つて居る。

又教育方面に就て見る に毎年の就學兒童數は著しき增加率を示し他に三千の生徒を收容せねばならぬ現在である、故に本年度に於て第二校建設の議成り既に定西部落に地を相し現に建築中である更に産業學校をして改組を叫ばしめ、女子教育機關として實科高女の開設の急を告げ目下其計劃中で明年度より或は實現の運びに至る機運を示して居る。

教育事業は第二世發成の基本となるべきもので茲に力を注ぐの要がある宜哉で西山校長を中心に既に前校長たる福尾伊太郎氏や、訓導たりし木田谷平氏等の町議として敏腕の揮ふあるを以て本町の教育事業は親船に乘つたより安神をして可なりである。

更に特筆して報導缺くべからざるものに銃後會としての各團体の活動がある、本町銃後會には小野町長を會長に、高木助役、樋口收入役を副將と して各吏員並に町議、各區長幹部として其体係をなし國防婦人會、方面委員等の遺家族慰問の赤誠、遺照諸の託銘行脚より得たる淨財を銃後會への寄附、其他各自有志家の寄附等に依つて遺憾なき銃後の赤誠を捧げて居る、此點に於ては出征せる各位に於ては區々たる憂を抱く事なく祖國の爲めに活躍あらむ事を祈つて已まぬ次第である。

小名濱町長　小野晋平
助役　高木保
收入役　樋口速

小名濱警防團
團長　高木要
副團長　賀志平
第一分團長　野崎貞行
第二分團長　木田谷平
第三分團長　鈴木正勳
第四分團長　菅原勇
警護部長　立花雄
防毒、救護部長　草野道平
交通整理部長　平野直康
工作、配給部長　藤田憲
避難所管理部長　御代喜作
特設消防部長　松原正美

小名濱尋常高等小學校
小名濱實業學校
小名濱成章女學校
校長　西山直三郎
外職員一同
電話四〇番

小名濱水道部
主任技師　原芳男
電話二四四番
外部員一同

福島水産試驗場長
小名濱水産講習所長
技師　渡邊直人
電話一六番
自宅電話二六番

小名濱測候所
所長　田代武四郎

小名濱郵便局長
木村久
外局員一同

平區裁判所小名濱出張所
所長　小澤四郎

小名濱登記所
司法書士一同

小名濱漁業協同組合長
水野政次郎
外幹部一同

小名濱信用販賣購買利用組合
組合長　長瀨金右衛門
外幹部一同
電話一二番

小名濱海産商組合長
小野豊次
外幹部一同
電話一一四番

小名濱海産物食料品加工組合長
伊藤三男
外幹部一同
電話二一四番

海産物出荷組合長
立花新次郎
外役員一同
電話一〇九番

小名濱海産物卸商業組合長
金成利惣太
外幹部一同
電話七一番

揚操漁業組合
組合長　野崎貞行
外組合員一同

藥種商組合
組合長　小野泰二郎
電話二〇四番
副組合長　白石朝五郎
電話三三番
外組合員一同

町營魚市場代行機關
磐城水産工業株式會社
取締役社長　小野晋平
支配人　福尾伊太郎
電話三四番

遠洋大型汽船東日本丸經營
東日本漁業株式會社
取締役社長　水野政次郎
外重役一同

磐城無盡株式會社
小名濱出張所
郡山無盡株式會社
小名濱出張所
福島無盡金庫株式會社
小名濱出張所

平製氷株式會社
小名濱出張所
電話五十一番
日本水産株式會社
小名濱冷凍工場
電話六六番
工場長　菅原吉之助
自宅電話一〇番

町醫師團
石井醫院（イロハ順）
西山醫院
野村醫院
保田醫院
久保醫院
草野醫院
黒澤醫院
宮津醫院
鈴木醫院
電話一八番
電話二五九番
電話（呼）二一八番
電話一七三番
電話四五番
電話一四八番

齒科醫師會
萩原齒科醫院（イロハ順）
福尾齒科醫院
全田齒科醫院
中ノ作齒科醫院
木村齒科醫院
門馬齒科醫院
鈴木齒科醫院
電話三四番
電話一〇五番

酒造組合支部
米屋　草野良太郎
清水屋　小野晋平
磐崎屋　小野ゆう
稲葉屋　江尻子之太郎
岡崎屋　岡山重喜
亀屋　堀越大次郎
ふじ屋　馬上幸助
小名濱電話六二番
小名濱電話六番
小名濱電話七番
小名濱電話二八番
江名濱電話二〇番

醤油味噌釀造支部
伊勢屋　丹治
大一屋　小島竹次郎
緑屋　志賀要平
江尻子之太郎
岡山重喜
亀屋　大次郎
ふじ屋　馬上幸助
電話九番
電話二九番
電話一三番
電話一二五番

諏訪丸船主　野崎貞行
電話五五番

共徳丸船主　柳内儀助
自宅電話一五七番屋四一

町會議員　立花雄七
電話一〇二番

大勝丸船主　三代義勝
電話七四番

醤油味噌釀造元
合名會社　岡崎屋本店
電話一三番
振替貯金口座東京六六一四番

銘酒養老釀造元
米屋　草野良太郎
電話六二番

株式會社　亀井商店
小名濱駐在員　電話二〇七

土木建築　請負三崎組
組長　太田武彦
電話二〇二番

過照諸小名濱支部
支部長　宮島一壽
外同　光

藝妓置屋組合
花若不三新す
電話の六三番非
電話二二五番竹
電話一九番家
電話二番屋
電話三番米
電話一〇番や
電話八番ま

二業組合
濱吉亀津福錦幸新
電話一二〇屋
電話田一四〇屋
電話田村一四〇屋
電話一七屋
電話盛
電話八米四館樂

江名濱漁業組合
組合長　黒川喜一郎
電話二番
外組合員一同

玉川村自治革新同志會
副會長　西藤丸喜三郎
會長　駒木根忠一郎
常任幹事　野崎藤太三郎

常磐線
泉驛長　友部弘勇

丸通代理店
泉運送合資會社小名濱支店

植田警察署管内
土木請負業統制組合
組合長　成瀨巴三
副組合長　赤津溯
會計幹事　星初幸
常任幹事　西山係太之亮
顧問　中外幹事吉國友助郎
一同

吳羽紡績株式會社
錦工場　石城郡錦村
工場長　瀨理敏
事務長　田畑留七
外幹部一同

一、當工場の現況　當工場ハ東北有數ノ大人絹工場ニテ昭和人絹工場ト合併後更ニ雄大ナル工場トシテ誇リトルニ足ル
一、邦家ノ爲メ『オール』産業人ニ吾錦工場ヘ御入社下サイ
一、待遇方法　機械其他ノ設備ヲ改善スルト共ニ男女工ノ待遇ニ優遇ノ道ヲ開キ衛生設備ト共ニ完備ノ域ニ達セリ
一、本工場ヨリ出征將士ニ對スル銃後ノ觀リハ出來得ル限リノ赤誠ヲ範メ萬遺漏ナキヲ期ス
一、銃後國民タル工場員ハ充分守リヲ確フシ遺憾ナキヲ期スル以テ出征將兵各位ニハ東亞建設ノ爲メ一層盡瘁サレンヲ希フ

土木建築請負
和洋銅、鐵商
馬上兵吉
電話一三七番

江名町警防團長
黒川喜一郎
外團員一同

江名常常高等小學校
校長　振旗弘
外職員一同

江名町
國防婦人會幹部一同
愛國婦人會幹部一同

玉川村長
宮内久枝
國防婦人會幹部一同

玉川村農會長
遠藤喜三郎
外會員一同

玉川村警防團長
宮内久枝
外幹部一同

玉川村常常高等小學校長
石井定衛
外職員一同

町縣會議員
小濱長太郎

町會議員第三區長
立花秀吉

丸龜醤油味噌釀造元
縣會議員
坂本龜太郎
石城郡植田町

豊間大敷網
阿部事務所

豊間縣常高等小學校長
大塚吉造
外職員一同

渡邊村會議員
柴田正則

渡邊村役場
村長　永山定秀
外吏員一同

渡邊村答戸
總社　諏訪神社
社掌　高木信定

土木建築請負
成瀨組
組長　成瀨巴三
石城郡植田町

東亞醫科大學
小野離
青島市江蘇路九

常磐毎日新聞
小名濱支局
小野務平
鈴木秀壽

小名濱西町郵便局長
江尻郷
（ラヂオ取扱小名濱嘱託）